



事務局からの展望

高間 猛氏・昭和62年卒

五館市支部会長
夕陽会
発行所
 夕陽会函館市支部
 函館市立北美原小学校
 印刷／株島本印刷

雪解けが進み、長かった冬も終わりを告げようとしている。木々も芽吹き春を迎える足音が大地にこだまする。三月は年度の節目と自然の芽吹きが相まって格別な思いの月である。母校も新課程の学年生がはじめて巣立つこととなる。この時期になるとともう七年も前になるが、道新聞のコラムに掲載された母校の教授であつた野口先生の「まで」の努力、「から」の努力の記事を思い出す。日本の学生の気質について述べたもので、要約すると「大学に入るまではよく努力するが、その目的が達成されると努力しなくなる。本当に大切なのは入つてからの努力である。」という内容であった。ところが、先日、同様の話を植松努氏が講演で述べおられた。彼は、一九六六年、芦別の町工場の息子として生まれ、自分の興味・関心を周りの反対にも負けずに夢を貫いている人である。大樹町の自分の工場で、独立でロケットの打ち上げに成功し、アメリカNASAの宇宙開発にも参加するなど世界的に活躍している人である。二〇〇五年には青年版国民栄誉賞「人間力大賞グランプリ」を受賞している。講演のなかで氏は、「一流といわれる大学へ合格した学生は無駄なことはしない。試験に出ることについては熱心であるが、それ以外のことには興味を覚えててもしようがない。」と、学問への探求ではない。小さいころから、学問への探求ではない。小さな話がある。大手の自動車会社へ就職を希望した一流大学の学生たちの中に車に興味をもつていなかつた学生が多数含まれていた。興味のない人達に会社を託すのはいられない。」講演

函館市は昨年、開港一五〇周年の節目を迎えた。そして、今年は新しい船出の年となつた。二月に行われた函館市支部の受賞祝賀会並びに大懇親会では、地域の他のことには興味を覚えててもしようがない。目的が大学へ合格することであり、リスクを回避する傾向が強くなる。こんな話を聞いているので必然的に大學での勉強も消極的になる。就職後もリスクを回避する傾向が強くなる。こんな話を大手の自動車会社へ就職を希望した一流大学の学生たちの中に車に興味をもつていなかつた学生が多数含まれていた。興味のない人達に会社を託すのはいられない。」講演

最後に、ロケットの打ち上げに失敗した映像が何度も流れる。その度に、「なぜ、こうしたらどうか。その繰り返しの結果が成功へつながる。」と氏は語る。「全ての材料はホームページセンターで用意できます。燃料もビニールの買い物袋です。私は、小さいころのペーパークラフトからロケットの優れた形を学びました。夢には叶う。子どもたちが、夢をあきらめずに生きていける、そんな社会にしていきたく。」という言葉で氏の講演は結ばれる。老子の言葉に「人を知る者は知なり、自らを知る者は明なり」というのがある。生きていける、そんな社会にしていきたく。老子の言葉に「人を知る者は知なり、自らを知る者は明なり」というのがある。生きていける、そんな社会にしていきたく。老子の言葉に「人を知る者は知なり、自らを知る者は明なり」というのがある。生きていける、そんな社会にしていきたく。

最後に、ロケットの打ち上げに失敗した映像が何度も流れる。その度に、「なぜ、こうしたらどうか。その繰り返しの結果が成功へつながる。」と氏は語る。「全ての材料はホームページセンターで用意できます。燃料もビニールの買い物袋です。私は、小さいころのペーパークラフトからロケットの優れた形を学びました。夢には叶う。子どもたちが、夢をあきらめずに生きていける、そんな社会にしていきたく。」という言葉で氏の講演は結ばれる。老子の言葉に「人を知る者は知なり、自らを知る者は明なり」というのがある。生きていける、そんな社会にしていきたく。老子の言葉に「人を知る者は知なり、自らを知る者は明なり」というのがある。生きていける、そんな社会にしていきたく。



夕陽会函館市支部 副支部長 青木 昌史
(昭和五十三年卒)

夢は叶う

母校ではたくさんの夕陽会員が教員免許を取得するための講義を担当しています。私も小学校算数科教育法の講義を始めてから三年。教員を目指す後輩たちの積極的な頑張りを心強く感じます。

講師となつてまず驚いたことは、授業時間の設定と講義数の多さです。五講目が十六時二十分から、六講目は十八時から始まり十九時三十分に終わるのです。土曜日が休日になつたことや、各専攻の単位に加え介護等体験などの新しい単位、教員免許を取得する単位などが増えたこともありますのでしよう。夕方、十分間の休み時間に「お腹が減った。」とパンやおにぎりをほおばつている学生たちを見ると、思わず「頑張つて!」と声をかけたくなってしまいます。

また、受講する学生たちのまじめさと学習する意欲にも感心します。グループによるディスカッションでは積極的で真剣な話し合いがなされ、考え出されるアイデアからは、発想の豊かさと柔軟さに驚くこともたびたびです。

さらに、本来、小学校の免許を取得可能なのは『人間発達専攻』の学生なのでですが、『他専攻』の学生も数多く受講しています。小学校の免許を取得すれば教員採用選考検査で有利だという状況もあるのかかもしれません。しかし、必要な単位に加え、他免許の単位も取得するとい



夕陽会函館市支部 顧問 伊藤皓嗣
(昭和四十四年卒)

がんばれ! 後輩

う強い意志と姿勢には頭が下がります。一方、講義が終わつてからのアルバイトも変わつてきています。以前は“家庭教師”が中心。知らず知らずのうちに教材を研究し、指導するという技術を学んでいたのかもしません。何人の学生に確かめたところ、飲食店スタッフ“”という返事が多く聞かれました。学習塾へ通う子どもが一般的になつてきましためだらうとは考えますが、大きく様変わりした現実を見る思いがします。

母校は、地域社会に貢献できる人間の育成を目指す『人間地域科学課程』と生まれ変わりました。後輩たちが地域の各分野で活躍する時代を迎えたのです。しかし、「英語をしっかりと学び、日本語教師になりたい。」『高校の公民の先生を目指します。』合格発表時におけるこれらの新聞記事から、教員への強い夢をうかがい知ることができます。

『人間発達専攻』は三年次に函館市内の教育実習。『他専攻』は四年次に出身校に戻つての教育実習。しかし、四年次七月に行われる教員採用選考検査の自己推薦書には、実習経験を記入する欄があるのです。時期的にも金銭的にも大きな矛盾を感じます。せめて、検査時には、教育実習を終えていることが必要ではないでしょうか。後輩の力を十分發揮できる母校の体制を期待したいものです。

受賞者ご芳名一覧 (敬称略・順不同)

春の叙事勲瑞宝中綴表彰	尾形山谷島山村中鳴海山	猛 恵 真昌 順慶
北海道教育文化ツツ	長中小中鳴海山	惠 之 吾 弘 二
函館市スポーツ	島山村中鳴海山	(昭和47年卒)
函館市文化団体協議会	山村中鳴海山	(昭和39年卒)
全国学校体育研究功績者表彰	中鳴海山	(昭和29年卒)
函館市青麒麟章	鳴海山	(昭和30年卒)

函館市立学校教職員表彰

安藤信男 (昭和46年卒)	本間秀昭 (昭和46年卒)
浦田正 (昭和46年卒)	森武由美子 (昭和46年卒)
鈴木秀明 (昭和46年卒)	須藤康雄 (昭和47年卒)
高橋久夫 (昭和46年卒)	鶴林宗三郎 (昭和47年卒)
武田誠 (昭和46年卒)	小佐藤康秀 (昭和48年卒)
手坂世志雄 (昭和46年卒)	藤井篤正 (昭和48年卒)
野呂克巳 (昭和46年卒)	伴明 (昭和48年卒)
平澤治壽 (昭和46年卒)	

受賞おめでとうございます



青麒麟章受章に当たつて
夕陽古俳人との絆

畠山慶一（俳号思雨）

（昭和十九年卒）

昭和五十七年に函館市文化団体協議会が設定したこの白鳳章は、函館の文化や芸術活動に長年に亘り貢献してきた個人や団体に贈られ、青麒麟章は単年度の文化芸術活動の中で顕著な実績に対しての称号である。

今回私の著書「函館俳壇史録」がその青麒麟章受章の対象となり、函館の文化史の中に位置づけられたことは望外な幸せでありこの上ない喜びである。単年度とはいえ、それまでの長年の資料の発掘や蓄積、研究結果の執筆等を考えると並大抵のことではなかった。まして教職四十年以後の未知未経験の俳句世界のことでおさらのことであつた。

白鳳章は、熟年高齢者が多く、今回も八十七歳と八十歳の方が受章した。夕陽会関係の過去の受章者は九名おり書道と音楽の関係者に集中している。

青麒麟章は単年度の活動が主で、比較的若年層が対象となり当日の受章者の才ペラ歌手は三十五歳の女性と私で老若並んでの受章であった。夕陽会関係では、過去に二名の会員がおり今回私が加わることになった。しかも、八十五歳という高齢での受章は稀有のことである。青麒麟章ではどうかとも言われたようでもあつたが、青年らしい意氣での活動があつたが、青年らしい意氣での活動が評価されたとも聞いている。函館開港百五十周年を迎えた昨年より五十年も先に松前箱館を基盤として俳句



教え子と音楽仲間（函教大音楽科同窓）
に感謝して

中島眞之

（昭和三十九年卒）

結社が根づき、道南が北海道俳句の発祥の地となつてゐる。江戸後期からの草創期から明治大正を経て現代に至る二百年の俳壇の全貌を詳細に記述した俳壇史である。結成された結社に活動した俳人の俳歴と作品等を加え、市内の句碑約三十基の所在と碑句が網羅されている。

顧みるに教育現場より知らない私が定年後俳句界の仕事をするようになつたのには、夕陽会の先輩の影響が多かつた。第一回卒の恩師町田利兵衛（李石）先生からは国語教育の基盤を学び、（T十二卒）菊地五三（京路）氏からは市内の句碑の存在や作者の俳歴などを教えてもらつた。

（S四卒）佐々木与吉（子興）は、私の叔父であり札幌本社の葦牙俳句会の重鎮にあり作句指導を懇切にしてもらつた。

（S十卒）田畑繁雄（草穂）氏とは、函館俳句協会創立時から協会の幹部として協会の広報部を担当した。同僚の（S二十二卒）安達整氏は、函館俳句協会創立の提唱者の一人でもあった。今回、俳壇史の草創時代の執筆には、北海道函館師範学校卒業証書第一号の古谷全（亜禪）氏の著書「道南俳人列伝」が大いに参考になつた。これらの人々はみな俳号を有し、その道での顕著な活動をされており、これら故人の方々の示唆や助言と協力があつたことに深く思いを馳せ、改めて感謝の意を表する次第である。

十一月三日、函館市民会館での「文化賞贈呈式」の日は、朝から雪のちらつく寒い日でした。控室の大きなガラス窓には木々の紅葉と降る雪の白さが入り交じる美しい光景が映し出されました。その光景に見とれながらも脳裏には私を支えてくれた教え子の顔やオーケストラという夢を追い求めた音楽仲間の顔が、次から次へと浮かび、懐かしさと感謝の気持ちでいっぱいになりました。

このたびの函館市文化賞の受賞は、永年にわたる音楽教育と音楽活動に対する評価を頂いたものと嬉しく思つています。

私の音楽活動は吹奏楽指導に始まり編曲や作曲、そして市民オーケストラやジュニアオーケストラの創設に携わり、団の運営と演奏活動をしてきました。その活動は常に教え子たちと一緒に、彼らに勇気と活力を貰いながら歩みました。三十歳半ば、吹奏楽からより音楽表現力のある交響吹奏樂へ進化を図りました。その足跡の中に幻となつた音楽会があります。昭和五十二年十二月三日（土）函館市民会館で開催された「夕陽会六十周年記念」第一回音楽会です。

第一部「太陽は赤く燃える」夕陽音樂前史。第二部が「音楽会」でした。プログラム2「ピアノ協奏曲「ラプソディ・イン・ブルー」（中島眞之編曲）ピアノ十桐陽交響吹奏樂團という演奏形態でのチャレンジでした。しかし、ピアニストの体調不良のため、当日の演奏は「幻」となりました。プログラムを見て楽しみにしていた方やどのような演奏になるのかと半信半疑で来られた方も居られ、みんなとても残念がつっていました。

編曲に多くの時間を費やした私自身、そして練習を積み重ね本番を期待している団員たち、言葉には言い尽くせない気持ちに陥つたことを覚えていました。

翌年、音楽協会春季定期演奏会で、同じ曲を女性ピアニストと協演でき、念願を達成しました。しかし、私の心にはこれがフルオーケストラだつたら」という強い願望が湧きあがりました。これをきっかけに函館にもオーケストラをとう夢が、必ずオーケストラを創ろうといふ強い思いに変わり、実現に向けて動き出しました。その思いは教え子や音楽仲間、音楽愛好家にも伝わりました。丁度その時期、村本淳一氏（現函館市民オーケストラ団長、函教大四十六年卒）との出会いで一気に強まり、吹奏樂活動をしている教え子や仲間、更に音大生の教え子にも呼びかけ、支援・協力を得て函館市民オーケストラは誕生しました。

このたびの受賞は、吹奏樂やオーケストラ活動を共にしてきた教え子や音楽仲間のお陰であり、みなさんを代表して私が頂いたものと深く感謝しています。



出会いに感謝して

長 谷 恵
(昭和四十七年卒)

このたび、北海道教育功績者表彰の栄に浴し、これまでにご指導くださった皆様方のお陰と深く感謝を申し上げます。

また、早速に、夕陽会橋田会長様、夕陽会函館市支部碇支部長様から「丁重な祝詞をいただき心より厚くお礼を申し上げます。

私は、昭和四十七年に母校を卒業し、渡島管内の山間僻地併置校で、教員としての第一歩を踏み出しました。赴任最初の挨拶を校長先生にした折りに、「よく来なれ。俺も夕陽なんだぞ」と声をかけていただきました。教員採用が叶つた喜びに加えて、温かいものが心の内に流れることを覚えています。赴任先の職場は、旧制高校出身者や他大学卒業者、また、他の分校卒業生が多く、一般教諭の中で、夕陽の同窓生は、十歳年上の先輩一人だけでした。私は、この先輩から、時には優しく、時には厳しく、様々なことを教わりました。日常の授業の組み立て方や学級だよりの書き方に始まり、生徒指導や分掌業務、家庭訪問や学級PTA活動の内容等、さらに、地域との結びつきの必要性など、学ぶことがたくさんありました。中でも、教育観や児童観に関わる内容については、自分の考え方を確かに持つことの大切さを学びました。

「あんた、大学で何勉強してきたの?」教員五年目を迎えた頃、先輩の当時の口癖を時々思い出します。

夕陽出身の新採用者が赴任することになり、「後輩誕生」を率直に喜びました。先輩から受けた数々の教えを、今度は、自分が後輩に伝えていきたいと意を強くして努力を重ねました。しかし、なかなかうまくいかず、後輩の立場から先輩の立場になるのは、とても難しいものだと感じました。

六年後、転勤した学校には、夕陽の先輩や後輩がたくさんおり、いろいろな視点からご指導やご鞭撻をいただきました。若輩の私でも、少しずつ自分の意見を述べることができるようになり、学校運営や校内研究の楽しさを味わえるようになつたように思います。

その後、函館での勤務となりましたが、校内研の折りに、夕陽先輩の指導主事さんにも励まされたり、教育センター研究員として呼んでいただいたら、私の向上心を少しずつ高めていただきました。

振り返りますと、私は三十代前半に松前町から生まれ故郷函館へ異動させていただき、一年後、学生時代からの念願でありますサッカー少年団の創立を、同僚の先生と共に実現することができました。練習を頑張つても試合ではなかなかいい結果を出せず苦労もありましたが、サッカーハ好きの子どもたちとの活動は充実の毎日でした。ただ、いつも練習を

このたびは、思いもかけず全国学校体育研究功労者表彰の栄に浴し、身に余る光榮であります。また、受賞に際しましては、夕陽会はじめ皆様から温かなお祝いの言葉をいただき、誠にありがとうございました。

功労者表彰のお話をいただいた時、正直「何の功績もない私が……」の思いも強く述べましたが、函館市小学校体育研究会の活動に与えられたものと考え、函館の体育の仲間を代表して、受賞させていただきました。

昨年の十一月十日、全国学校体育研究大会島根大会開会式の後、全国各地から出席した体育の仲間と共に緊張と晴れやかな思いで功労賞をいただきました。

振り返りますと、私は三十代前半に松前町から生まれ故郷函館へ異動させていただき、一年後、学生時代からの念願でありますサッカー少年団の創立を、同僚の先生と共に実現することができました。練習を頑張つても試合ではなかなかいい結果を出せず苦労もありましたが、サッカーハ好きの子どもたちとの活動は充実の毎日でした。ただ、いつも練習を

優先し、体育サークルの研修会や会議への参加は、おろそかになっていたのではないかと思います。そんな時、お世話になつて、微力ながらお役に立ちたいと考えております。



体育の仲間を代表して

鳴 海 順 二
(昭和四十八年卒)

でもわかると思われるようにならなければダメだ。」と教えをいただき、「自分にとつて、今、何をどう頑張ることが大事なのか」を、しっかりと振り返ることができました。

平成四年、函館で開催された全道体育研究大会では提言発表の機会をいただき、研究や体育に対する思い・考えを大きく変えることができました。また、多くの体育の仲間との出会いもありました。

さらには、体育の校内研究の推進をまかされたことで、運動の楽しさを追求できる体育学習について研修を深め、何度も授業研究に挑戦しました。

今、あらためて、多くの仲間、先輩そして後輩の皆様が、いつも自分を支え指導くださったのだと実感しています。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございます。

これからも、この栄誉に恥じることなく、函館の体育の仲間と共に、多くの子どもたちが『体育を学ぶことの楽しさや意義を実感し、運動への意欲を高める体育学習のあり方』を、模索し続けていきたいと思います。

今後共、変わらぬご指導をよろしくお願いいたします。終わりになりましたが夕陽会の更なる発展を心からお祈り申上げ、お礼といたします。



生徒・保護者・諸先輩に感謝して

高橋久夫
(昭和四十六年卒)

このたび、函館市立学校教職員表彰の
栄を得ました。これも多くの皆様のお力
添えやご厚情があつたからであり、心より
お礼と感謝を申し上げます。

改めて在職した其間を振り返ってみると、実に大きなうねりの中にあった三十年間であつたと感じております。身近にあつた道具を例にとると、教職生活はガリ版を使うことからスタートしました。その後湿式コピー（青焼き）、ファックス、電動タイプ、ワープロ、パソコンへと変わりました。この間に学習指導要領は四度変わり、すでに次の移行も始まっています。内容や目的も、現代化力の育成、個性を生かす教育、「生きる力」の育成、そして次は知識・道徳・体力のバランスのとれた力の育成へと、学習指導要領が変わったたびに振り子のように揺れました。



今回いただいた函館市立学校教職員表
彰は、次はOBとして学校や後輩に還元
しなさいとの示唆ではないかと考えております。夕陽会員としての自覚を忘れず
函館や地域の学校・児童生徒をさりげなくサポートしていきたいと考えております。
夕陽会の益々の発展を祈念し、お礼
の言葉といたします。

生徒指導を担当した時は生徒が悩み・もがきながらも人間らしさを忘れない姿から教育観が変わりました。この経験が管理職となつた後にどれだけ役に立つたか計りしえません。そして何よりも心強かつたのが夕陽の諸先輩です。函館や八雲・知内・七飯の各支部の懇親会で温かく励ましていただきたり、教育を熱く語る姿から明日への活力を得ることができました。

生徒と密接に関わりました。八雲の八雲中では保護者とも行き来する程親しくなり、保護者との連携を体験の中で学ばせていただきました。附属中や八雲中時代の生徒と今でも親交があるのは、楽しい思い出を共有したからではないかと考えています。教職生活の後半に強い影響を与えたのが函館の赤川中です。赤川中では教務で教育課程編成の面白さを知り、



出会いに感謝して

林 武由美子

このたび、函館市立学校教職員表彰
栄誉を得ました。このようないい厚情あ
れる表彰をいただきまして心よりお礼を
し上げます。三十八年間の教職生活で

支々たたかふの甲申にしている」という思いをしつかりと受け止め、校長として市渡小（旧大野町）中島小、深堀小では、信頼される学校づくりに努めました。「一を聞いて十を知る」教職員に支えられました。また、地域の方々は、教育活動に気持ちよく協力してくださいました。

のものも、講究輩や同僚後輩等、多くの方との素晴らしい出会いがあり、皆様に心から感謝申し上げます。

域の方々は、教育活動に愛を持ちよく協力してくださいました。

お陰さまで何とか大過なく退職の日を迎えることができました。このように多くの方々に支えられ助けられた教職生活であつたことに、お礼と感謝を申し上げます。

昭和四十六年 福島町の千軒小学校
ら教職生活が始まりました。子どもたち
や保護者、地域の方々との心の交流が深
まり、一体感が醸成できることの大切
を実感し、その後の教職生活の原点
なっています。

その後、函館市に勤務することになります。市内五校に勤務しましたが、教鞭としてとても鍛えられました。

い思いを語り合うことが多かつたよう、思います。いろんな人がいる教師団体が、互いのよさを認め合い協力し合うこと「一層よい教育実践ができる」とも体験しました。

とて
今後
げます

厚にが、でしして、お役に立てるようにしたいと考えております。感謝して、函館市の教育の充実のため、少しでもお役に立てるようになっております。



ると思つています。最初に勤務した川崎市の中学校では指導教官の下で一年間指導略案を書きました。略案が書いてあるノートはその後数年間自分のかけがえのない財産となりました。次に勤めた函館の附属中では教育研究のノウハウを教え込まれました。と同時に特別活動と称して段ボールで船を作つてパールに浮かべたり、タイムムカプセルを埋設したりと

学校・職場紹介

函館市立本通小学校

明るい子どもたちです。休み時間は低学年から高学年まで元気に遊び回っています。ただ、本校の子どもたちも、運動面における一極化が見られますが、多くの子どもたちが少年団活動に汗を流し、楽しく練習に励んでおります。

松本克美（昭和五十五年卒）
本校に赴任して早、五年目になると
校舎は中庭を中心に一周することご

井止久美（平成二年卒）

えも感じる今日この頃ですが、これまでの経験を生かし、これからも子どもたちの指導に全力で取り組んでいきたいと思
います。

井止久美（平成二年卒）



小松一
■会員紹介

■会員紹介

本校は昭和四十六年四月に、鎌神小学校、亀田小学校、柏野小学校の児童数急増の緩和をねらい、五稜郭公園の東方かつての亀田耕作地帯に亀田郡亀田町立本通小学校として開校した。半年後には亀田市立本通小学校、さらに二年後には現在の函館市立本通小学校と改称された本校では、児童の知的好奇心・興味・関心・知的感動を大切にし、問題解決的な学習や体験的な学習を推進して「確かな学力の」定着を図っている。

本通小学校で三年がたちました。現在は三年生の担任しており、毎日、元気な子と悪戦苦闘しております。専門は図工・美術です。分掌では文化部で放送関係を担当しています。放送はちゃんとやつて当たり前で失敗が目立つのでたいへんです。また、専門の関係から、卒業式や入学式の装飾を担当し、毎年アイデアが出なくて苦労していますが、何とかがんばっています。

藤山 隆子（昭和五十四年卒）

本校勤務二年目となりました。現在、六年生を担任しており、三月に七回目の卒業生を送り出します。難しい面もありますが、いのある高学年ですが、年々変容する子どもたちの姿に戸惑うことも多くなりました。また、精神的にも体力の衰え

本校に起任して六年がたちました。一年生を担任し、毎朝元気に登校する子どもたちからパワーをもらつて、楽しく過ごしております。広い校庭に子どもたちと出かけ、クリ、クルミ、桜などの木々を眺めたり、気に入つた絵本を読み聞かせしたり、子どもたちとのふれあいを大切にするよう心がけています。分掌は文化部を担当し、委員の子どもたちとイラスト展や平和活動に取り組んでいます。

本校に赴任して二年目となりました
かつては約千四百名も在籍していた校舎
は、一周巡回すると約六百メートルも歩
きますので、ちよつと?メタボ気味の私
にはちょうどよい運動となっています。
子どもたちは明るく快活で礼儀正しいで
すし、教職員も研修や職体などでは一致
団結して取り組むなど仕事と遊びをうまく
両立できる楽しい雰囲気の学校です。

尾形真由美（昭和五十五年卒）

石津潤（平成四年卒）

今年度で本校赴任四年目になります。分掌は、教務。現在四年生を担任しております。本校は五稜郭公園の近くに位置し、五稜郭の四季を感じながら朝夕の渋滞にもめげず通勤しております。教室では、四年生の元気な子どもたちからパワーをもらいながら、学校生活を楽しく過ごしております。最近は、体力の低下を感じ始め、我が家の愛犬をインストラクターにして、散歩に取り組み足腰を鍛えております。

鍋嶋直子（昭和五十八年卒）

本校に赴任して二年が経ちます。本校の前は、新しく函館市に入り統合校になつたえさん小学校です。初任は留萌管内、次は空知管内そして樺法華、大野と渡島の各校で多くの子どもたちとのふれ

尾形真由美（昭和五十五年卒）
本校に赴任して五年目となります。今
年度は五年生担任で、三十人の元気な子
どもたちと楽しく過ごしています。今年
度から図書館担当になり、今年の冬休み
に、職員の協力を得て、蔵書をパソコン
に入力しバーコード化することができま
した。また、今年度は百万円以上の追加
配分の図書費をもらい、購入した本の整
理にあわただしい毎日を送っていますが、
子どもたちの本を楽しみにしている気持
ちに支えられながら頑張っています。

小林郁（平成七年卒）
本校に赴任して五年目になります。現在は、三年生の担任をしています。毎日明るくパワフルな子どもたちから元気パワーを充電してもらっています。校務分掌は研究部で、周囲の先生方の協力も得ながら頑張っているところです。

糸畠由佳（平成十八年卒）
新採用で本校に赴任して四年目を迎えました。現在二年生の担任として、元気いっぱいの子どもたちに囲まれています。子どもたちを教えるという立場でありますから、逆に「自分自身が子どもたちから教わることの多い日々を送っています。まだまだわからないことが多く、奮闘の毎日ですが、周りの先生方をお手本に、さらに成長していくようこれからも努力していきたいと思います。

小林郁（平成七年卒）
本校に赴任して五年目になります。現在は、三年生の担任をしています。毎日明るくパワフルな子どもたちから元気パワーを充電してもらっています。校務分掌は研究部で、周囲の先生方の協力も得ながら頑張っているところです。

糸畠由佳（平成十八年卒）
新採用で本校に赴任して四年目を迎えました。現在二年生の担任として、元気いっぱいの子どもたちに囲まれています。子どもたちを教えるという立場でありますから、逆に「自分自身が子どもたちから教わることの多い日々を送っています。まだまだわからないことが多く、奮闘の毎日ですが、周りの先生方をお手本に、さらに成長していくようこれからも努力していきたいと思います。

平成21年度

夕陽会函館市支部受賞祝賀会ならびに会員懇親会

平成22年2月19日(金)

於ロワジールホテル函館



スポットライトのもと
受賞者お一人お一人に記念品贈呈



受賞者を代表してごあいさつする
中島 真之様



祝杯のご発声をする
夕陽会会長 橋田 恒一様



よく出席くださいました
市役所、民間の同窓の皆様
ありがとうございました



ご祝辞を熱く語る
西尾函館市長



夕陽会函館市支部より
函館市へ車椅子の寄贈
7月オープン予定の
箱館奉行所で使用予定



おめでとう
ございます
おっとと～



締めの乾杯は
多賀谷教育長



受賞者の皆様、そして自分へも？エール
平成18年卒の同期コンビ
(新卒4年目コンビ)
皆様の手拍子に感謝！感謝！



小林周次先生の先導で力強く寮歌！
♪巴湾の水の精を掬み・・・♪



◎ 計報 ご冥福をお祈りいたします

報

ご冥福をお祈りいたします

奈良岡邦啓氏	昭30年卒	平20年8月ご逝去
上野 輝三氏	昭32年卒	平21年2月ご逝去
西嶋百合太郎氏	昭13年卒	2月ご逝去
田嶋 靖彦氏	昭29年卒	3月ご逝去
鈴木 尚正氏	昭13年卒	3月ご逝去
加須屋 勲氏	昭29年卒	4月ご逝去
角五 修一氏	昭31年卒	4月ご逝去
伊藤 順夫氏	昭30年卒	5月ご逝去
吉田 安宏氏	昭32年卒	6月ご逝去
近藤 昭氏	昭29年卒	6月ご逝去
岩川 準氏	昭25年卒	6月ご逝去
菅野 穂氏	昭26年卒	7月ご逝去
北林 秀男氏	昭29年卒	10月ご逝去
田邊 康夫氏	昭30年卒	11月ご逝去
尾形 猛氏	昭24年卒	平22年1月ご逝去
小笠原 侑氏	昭23年卒	1月ご逝去
新明 謙治氏	昭13年卒	2月ご逝去

平成二十一年度
夕陽会函館市支部
会務報告

夕陽会函館市支部事務局

<p>6月</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会費徴収 ・大懇親会の推進業務（ホテルとの打合せ・しおり作成） ・第5回本部役員会・顧問・参与会に支部長、幹事長出席 ・大懇親会運営・夕陽会全国支部長会議に支部長、幹事長出席 ・夕陽会総会に支部長出席 ・支部会報発行計画・事務局会議 ・本部会報198号移送 ・支部役員会 ・夕陽会全国支部幹事長会議に幹事長出席（札幌市） ・事務局会議 	<p>平成22年</p> <ul style="list-style-type: none"> 1月20日(水)・顧問会議案内発送 ・事務局会議 28日(木)・支部役員会 2月8日(月)・祝賀会・会員懇親会参加者とりまとめ、しおり作成 13日(土)・夕陽会渡島支部勇退者激励感謝の会に支部長出席 19日(金)・支部祝賀会・会員懇親会 11日(木)・22年度会員名簿作成依頼 ・支部会報77号発行 ・栄進者への祝意 ・支部役員会・会計監査 ・事務局会議 ・本部会報200号移送 	<p>26日(火)・第4回本部役員会に支部長出席</p> <p>(ホテル法華クラブ)</p> <p>1月(金)・第2回夕陽会本部役員会に支部長、幹事長出席</p>
<p>8月</p> <ul style="list-style-type: none"> 8日(土)・幹事長出席（札幌市） ・事務局会議 		

事務局だより

※平成二十三年度は札幌開催予定

・本部総会 午後四時～
・大懇親会 午後五時三十分～
※平成二十三年度は札幌開催予定

事務局だより

- ・支部会報第七十七号をお届けいたしました。本会報の発行に際し、ご多忙な時期にもかかわらず、快く原稿をお寄せいただき誠にありがとうございました。紙面をお借りして、心より感謝申し上げます。
- ・前納会員制度のご案内を、三月でご退職される会員の皆様に差し上げております。便利なこの制度のご利用をお勧めいたします。

◆夕陽会本部総会・大懇親会

◇会員數十名以上の学校は、幹事の他に
二名以上

②学校幹事の他に以下の会員数の出席を
加えて報告してください。

◇会員数九名以下の学校は、幹事の他に

①学校幹事は必ず出席してください。

・会場 市民会館大会議室

四月十日(土)午前十時～田時

◆ 電子書籍版

◆函館市支部總會

〔平成二十二年度 予告〕